

おひさま通信

短期入所施設の  
役割とは...

\*しらゆりの家\*

一本の電話

Oさんとの出会いは、2年前のGWの5月3日。勤務時間が過ぎ、そろそろ帰ろうと思っていたところ、市役所から1本の電話がかかってきました。祝日に市役所からの電話でしたので、緊急の相談か、となんとなく予想しながら電話に出ると、障害分野にもいたことがある生活福祉課の職員からでした。精神疾患があり、目が見えず寝たきりになっている仲間の受け入れ相談でした。一緒に住んでいた母が救急搬送され、介助者が不在になること、居宅含め社会資源との繋がりが一切ないとのこと。祝日で施設長もいない、長期になることが目に見えていて、受け入れ枠もギリギリの状態だったので、『断る』が頭をよぎりました。その時に、相談者の情報を再度確認し、名前は知らないが知っている方もかもしれない

と感じ、とある会議の資料を確認しました。おそらく受け入れ先は見つからないと考え、受け入れの方向で、当時の施設長に連絡、相談し、受け入れが決まりました。寝たきりとのこと、車椅子への移乗も難しく、布団のまま車に乗ってきたので、職員7〜8人で部屋のベッドまで移動し、しらゆりの利用が始まりました。「地域生活支援拠点等」の整備が現在各自自治体に求められています。しらゆりの家も川口市の中でその一員になっています。現在は事業がスタートしていますが、2年前はまだ準備段階で、どのように整備していくかを検討していました。その会議で緊急時に行き先が難しい方として名前は伏せて議題が上がっていたことを覚えていました。受け入れの必要があると強く思った印象があります。

Oさんとの2年間

Oさんは、福祉サービスと繋がっていないこともあり、支援を受ける事に慣れていない様子で、来所時は夕飯のカレーを一口でむせてしまい、少ししか食べる事ができませんでした。会話もあまりなく、問いに答える程度、リハビリパンツ交換もなかなかさせてもらえず1日1回の交換でした。そこからのスタートで、少しずつ心を開いてくれるようにな

り、拒否していたわけではなく、職員に気を使っていたことが後にわかりました。今年の5月27日に、暮らしの場へ移行するころには、1日3回の食事を楽しみにして、早い時は食事中に次の食事を気にしていることも出てくることや、抵抗のあたりハビリパンツ交換も出たタイミングで職員を呼んでくれることも多くなっていました。

退所前には自宅の退去や自宅にあったお骨をどうするか等の相談や提案などにも心を開いて対応してくれました。もちろん、しらゆりの家だけで全てを行ったわけではなく、

行政や相談支援センターと連携をとってOさんを支えていった結果です。

しかし、Oさんの対応についてできなかったことも多く、課題もたくさん残った印象です。事実、移行後は車椅子への移乗も行え、散歩もできていると聞いているので、しらゆりの家では無理だと考えていたことを行ってもらっています。事業所の専門性、強みがあることの良さを感じました。同時に、2年間で施設での生活に慣れたことも大きかったと思いました。

また来たいと思える場所に

しらゆりの家は、障害の種類（知的障害・身体障害・精神障害・医療的ケア・難病）や年齢（児童・成人・高齢）、利用の理由（レスパイト・用事・



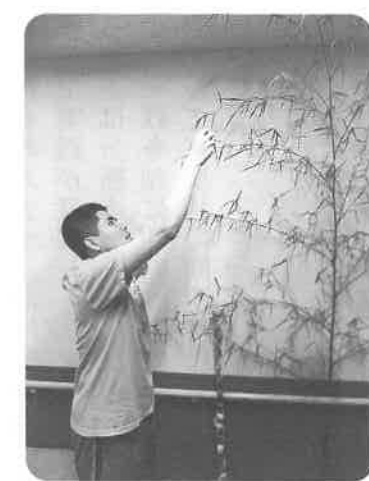
緊急など）を問わず受け入れができる短期入所施設です。その多機能さがゆえに受け入れ調整の難しさや希望に答えきれない事も多くあります。暮らしの場へ移行していない高齢の仲間も多く、通常利用をしていく中で、生活の一部になっていく仲間が多く、宿泊を利用することで、なんとか生活を保っていきける方も増加していききました。つまり、緊急の状態、暮らしの場への移行が本来必要な状態で、生活をしている世帯が多く、『レスパイト』が『緊急にならないように利用』になっている現状があります。しらゆりの家がこの様な対応をしていく理由としては、市内や県内の暮



らしの場、特に入所施設の少なさがあります。Oさんも、受け入れ先が見つかるまで2年かかっています。また、緊急を受けることができる数も限られており、繋がっていても緊急利用時に受ける事が出来なかったこともあります。その為、宿泊することに、本人だけでなく、その家族にも慣れてもらいながら、暮らしの場への移行準備をしていくことが必要になっていると考えます。

短期入所は使いたいときに使える機能の印象がありました。しかし、現在のしらゆりの家は、そこに対応できていません。それでも緊急やレスパイトの理由や背景を問わず、Oさんの時のように一人ひとりに寄り添った対応には自信があります。ただ泊まりに来る場所ではなく、また来たいと思える場所になれるように、これからも、地域支援の一角を担っていきたいと思います。

しらゆりの家施設長 大貫 祥太



響き

シャイン

5月は母子参観、6月は父子参観をしました。母の日、父の日があつたため、製作で作ったプレゼントを渡したり、普段の様子を見てもらうことができました。お母さんには花束を、お父さんにはビールと枝豆を作りおつまみセットをプレゼントしました。

はれ

GWに2つのイベントを行いました。1つ目はみんなで制作する布で作る鯉のぼりです。2つ目は出張珈琲企画です。出張珈琲屋さんをお呼びして焙煎された美味しい珈琲を楽しみました。当日は暑い日であつたので特に冷たい珈琲は人気でした！

大宮太陽の家

移転に伴い中断していたパウンドケートの定期便が再開しました。ありがたいことに法人内の各事業所からたくさん注文を頂き、製菓班の仲間・職員ともに励みになっています。定期便のケーキを作る日は量も多い分、仲間もやりがいを感じながら頑張って製造しています。

白岡デイサービス

活動の幅を広げようと模索している中で、シャーパーン作業をやりながらも「さりをやってみたい」という仲間が増えました。仲間が「やりたい」と思った時にいつでもやれる環境を作り、一緒に行うことで手ごたえに繋がっていきながら「やりたい」思いを実現していきたいと思えます。

サンライズ

仲間の希望に基づいた個別外出を実施しています。今回はOさんの以前からの希望である純烈のコンサートに行ってきました。メンバーが客席を巡る演出では、一生懸命手を振っていて少女のようでした。「また行きたいね！」ととても素敵な表情を見せてくれたOさんでした。

オレンジホーム

コロナによる制約が少しずつ緩和されていることで、仲間たちの外出、買い物なども配慮しながら回数が増えています。好きなものを買う楽しさや外出の楽しさが味わえるささやかな時間ですが、仲間たちにとって大切な時間です。気をつけながらコロナ前の暮らしに近づけていきたいと思えます。